

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「冬の朝」 教材名「冬の朝」

2 単元の目標

親しみやすい古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しむことができる。季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①親しみやすい古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しんでいる。 (〔知識及び技能〕(3)ア)	①「書くこと」において、季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表している。(B(1)ウ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

古文の響きやリズムを声に出して確かめ、そこで感じた季節の見方を手掛かりに、自分が見付けた季節の様子を書く。原文の丸写しではなく、自分の観察に基づく表現を選ぶ。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)アを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教科書の古文を範読し、季節を示す語を手元で確認する。続いて児童自身の観察や教師が示す写真から場面を選び、見えたものと感想を区別して短く書く。作品の本文は配布物へ転載しない。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。おおむね満足できる状況は、季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○古文を音読して季節を示す言葉を確認する。冬の空気や音などから印象に残った特徴を選び、触覚や聴覚を表す語を比べる。見たことと感じたことを分けて書く。選んだ語と表したかった様子を読み返す。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教科書の古文を教師の範読とともに読み、印象に残った響きを伝え合う。 使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。 ○「古文のどんな言い方が印象に残りましたか。自分なら季節のどの様子を書きますか」 【めあて】古文の響きやリズムを声に出して確かめ、そこで感じた季節の見方を手掛かりに、自分が見付けた季節の様子を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・ 声に出すと印象に残る響きがある。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「古文のどんな言い方が印象に残りましたか。自分なら季節のどの様子を書きますか」 古文を音読して季節を示す言葉を確認する。冬の空気や音などから印象に残った特徴を選び、触覚や聴覚を表す語を比べる。見たことと感じたことを分けて書く。選んだ語と表したかった様子を読み返す。 古文の響きについてのメモと、自分で見付けた季節の様子を表す短い文章。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 声に出すと印象に残る響きがある。 ・ 昔の文章と同じ季節でも自分が見た場面は違う。 ・ 見たことと感じたことを分けて書きたい。	教科書の古文を範読し、季節を示す語を手元で確認する。続いて児童自身の観察や教師が示す写真から場面を選び、見えたものと感想を区別して短く書く。作品の本文は配布物へ転載しない。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。 想定するつまずき：古文の意味を十分に確かめず型だけをまねる、経験していない場面を事実として書く。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表している。(発言と学習記録)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・見たことと感じたことを分けて書きたい。	まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「古文のどんな言い方が印象に残りましたか。自分なら季節のどの様子を書きますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ



AI三重